

当寺十八世神田洞光略歴

(号 慧運、諱 洞光)

大正十一年(一九二二)五月二十三日一歳

北海道空知郡富良野町、父神谷恒七、母きし乃の三男として誕生す。幼名孝三、

二歳のとき父死亡す。(父恒七 享年三十二歳)

昭和六年(一九三一)

十歳

福井県丸岡町長昌寺住職神田徳仙和尚に弟子入り、養子となり神田洞光に改姓改名す。

昭和九年(一九三四)

十三歳

石川県金沢市常松寺住職境洞巖和尚について得度す。

昭和十四年(一九三九)

十八歳

大本山永平寺に安居修行す。(十八年まで)

昭和十五年(一九四〇)

十九歳

福井県越前市(旧武生市)少林寺住職三輪僕淳和尚の下で首座を務む。

昭和十八年(一九四三)

二十二歳

駒澤大学専門部仏教科に入学す。(昭和二十三年卒業)新潟県胎内市(旧中条町)広厳寺住職神田徳仙和尚の室にて伝法す。

昭和二十三年(一九四八)

二十七歳

大本山永平寺に再安居修行す。(二十五年まで)この間大東亜戦争に参戦し、復員後、復学、再安居す。

昭和二十五年(一九五〇)

二十九歳

高祖道元禪師七百回大遠忌事務局主事を務む。

昭和二十七年(一九五二)

三十一歳

大光円心禪師祖学泰禪師侍者を務む。

昭和三十五年(一九六〇)

三十九歳

新潟県胎内市(旧中条町)広厳寺住職に任命せらる。本師当寺十七世徳仙和尚遷化す。(世寿七十七歳)

昭和三十八年(一九六三)

四十二歳

晋山結制を修行す。併せて永平寺七十三世熊沢泰禪師を戒師に拜請して五日間の授戒会を修行す。

*住職として檀信徒教化にあたるとともに

中条町公民館、役場職員として地域に貢献 中条ロータリークラブ創設会員となり平成十九年まで社会に奉仕 中条地区交通安全協会役員 中条町文芸愛好会会長 法務省新発田北蒲地区保護司(平成十九年叙位叙勲・瑞宝単光章賜る)

そろばん教室(慈眼学園)を開き児童生徒の教育にあたる。

昭和五十二年(一九七七)

五十六歳

新潟県第四宗務所第十七教区長を務む。鉄筋三階建ての位牌堂(乗雲閣)建立す。

昭和五十三年(一九七八)

五十七歳

権大教師に補任せらる。(黄衣被着)

昭和五十四年(一九七九)

五十八歳

大本山永平寺授戒会焼香師を務む。

昭和五十五年(一九八〇)

五十九歳

大本山永平寺二祖国師七百回大遠忌に法堂都管で随喜す。

平成二年(一九九〇)

六十九歳

本堂改築、永平寺七十七世丹羽廉芳禪師を拜請して落慶式を務む。

大本山永平寺二期法要に御先導師として随喜す。(平成十四年まで)

平成五年(一九九三)

七十二歳

大教師に補任せらる。(赤紫衣被着) 大本山永平寺授戒会引請師を拜命す。

(戒師丹羽廉芳禪師)

平成六年(一九九四)

七十三歳

新潟市民病院にて心臓バイパス手術す。

平成十年(一九九八)

七十七歳

大本山永平寺授戒会教授師を拜命す。

(戒師宮崎奕保禪師)

平成十二年(二〇〇〇)

七十九歳

十九世住職晋山結制に伴い退董式を修行す。

平成十四年(二〇〇二)

八十一歳

高祖道元禪師七百五十回大遠忌授戒会焼香師を務む。大遠忌中(四月、十月)は御先導師として随喜す。

平成十五年(二〇〇三)

八十二歳

寺族(妻)神田ミナ死去、享年七十八歳

平成十八年(二〇〇六)

八十五歳

十二月より東堂寮にてベッド介護生活。平成十九年(二〇〇七) 八十六歳 六月十一日世寿八十六歳にて遷化す。